

失語症者における言語流暢性課題の音声認識システムの開発（研究の進捗発表（シニア（大学4年生以上）, 概要講演あり, 既発表））

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-08-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北原, 正道, 山田, 千晴, 大門, 正太郎, 板口, 典弘 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00028318

失語症者における言語流暢性課題の音声認識システムの開発

北原正道（静岡大学情報学部情報社会学科）、
山田千晴（静岡大学情報学部）、
大門正太郎（クラーク病院リハビリテーション部）、
板口典弘（静岡大学大学院情報学領域）

言語流暢性課題は失語症者の言語症状の評価基準の一つとして利用されている。これまで、言語流暢性課題における発話内容や発話タイミングの記録や分析は言語聴覚士自身が行っていた。この作業を音声認識システムによって自動化できれば、データ収集が容易となる上に、発話という多量のデータに対する解析も可能となる。失語症では症状により、発話の誤り方にも特徴が現れるが、これまでの多くの既存の音声認識システムでは、発話の誤りを自動的に補ってしまうという“欠点”があった。本検討では発話の誤りをできるだけそのままの形で記録する音声システムの開発を行った。テストの結果、ラベル認識誤り率(Graves, 2006)は、0.895となった。今後の課題として、音素の出現頻度を考慮したデータセットを用いることや、より規模の大きなデータセットを用いる必要があると考えられる。

<既発表情報>

北原正道，山田千晴，大門正太郎，板口典弘，“失語症者における言語流暢性課題の音声認識システムの開発”，第18回情報学ワークショップ，オンライン，2020年11月。